

「てくてくカード」の利用実態に基づく 観光行動の分析

金 徳 謙

I. はじめに

観光による地域活性化を図る傾向は一般化し、全国どこの地域においても外部から来訪する観光者の増大を図っており、外国人旅行者の誘致を図ることも希ではない。しかし、多くの地域では、周辺を含む国内からの観光者の誘致に焦点を当てているのが現状である。こうした観光者誘致の試みは観光による諸効果の大きさを認識したからと言えよう。

観光者の誘致のために、来訪を促すプロモーション活動がもっとも一般的に行われる手法であるが、観光者自身が再訪問意欲を生み出すようなシステムづくりがもっと重要なことと言える。再訪問意欲に大きく影響を与えるものに満足度という尺度が使われている。満足度向上のための手法に、サービスの向上が古典的で一般的な手法である。しかし他方では、受入体制のような人的要因ではなく、観光地そのものも満足度に影響を与える重要な要因のひとつである。また、観光地に対する満足度が観光者の観光行動に大きく影響されることは、既知のことである。そのことから、本稿では、観光地における観光者の観光行動の重要性に着目した。

一方、観光地に対する満足度向上を取り上げる研究において、観光資源の保全や量的増加を図る研究、およびそのための仕組みをとりあげる研究が多くみられ、観光者の行動を取り上げる研究は少ない。⁽¹⁾本稿で着目したような人間の行動を取り上げた研究は、工学分野、とりわけ都市計画や道路などの新設・拡大などのための都市計画や土木工学分野などの分野からの研究がみられる一

方、社会科学においては、マーケティング分野からの研究がみられる。また、観光分野においては、買い物行動や観光地における回遊行動をとりあげた研究がみられる⁽²⁾。人間の行動を取り上げる研究において、研究の量や範囲の拡大が進む中、分析に用いられる手法を概観すると、聞き取り・アンケートによる手法や、追跡法、定点観測法、GPSを用いる手法などがみられる。

聞き取り・アンケートによる手法はもっとも古典的な分析手法といえ、朴(1995)や金(2008)の研究があげられる。追跡法は、GPSによる手法が多く用いられる今日においても屋内などGPSが機能しない場所において最も多く使われる手法であり、山下ら(2006)の研究がそれに当たる。定点観測法は、竹上ら(2006)があげられ、交通量調査などの人間や車の移動に商店を当てた研究が多い。GPSを用いた手法は、現時点でもっとも進んだ定量的な調査手法と言え、山本ら(2006)や李ら(2008)の研究があげられる。

以上のように人間の行動を取り上げる研究も多様化や専門化が進む中、行動の傾向を把握、理解することは行動研究においてもっとも早い段階に行われている。そこで、本稿では観光者の行動に着目し、広域における観光者の行動パターンの解明を図る。そのため、2009年4月から12月までの9箇月にわたり香川県で実施されたイベント「09香川まちめぐり てくてくさぬき」の期間中に発行された「てくてくカード」の利用記録を手がかりに、香川県内におけ

-
- (1) 金(2006)は、日本の観光研究における代表的な研究誌の全ての掲載論文を対象に、時系列にみる観光動向の変容と研究動向の変化を分析した。そこで、観光における認識の変化や形態の変化と共に、地域を取り上げる研究の量的増加や研究分野の拡大をあげている。また、都会から地域への傾向は都心部から農山村へと移り、地域を対象とするグリーン・ツーリズムやエコツーリズムのような持続可能性や地域振興を目指す地域研究の拡大をあげている。他方では、観光者行動の研究については、マス・ツーリズム時代における主要な研究領域と指摘、観光認識の変化によりこの分野の研究の減少を指摘している。しかし、観光の多様化により、観光者の行動も多様化が進んだ近年、その研究が増加傾向であることをあげている。このように、観光者の行動を取り上げる研究は増加傾向に転じていると言えるが、著しい拡大が確認できるまでに至っていない。
- (2) 大野(1968, 1970)および朴(1995)は、観光土産やその購買行動について論じている。また橋本(1994)は、観光地における観光行動を論じている。この類の研究がそれに当たる。

る観光者の行動を分析し、その傾向等を明らかにすることを目的に、論を展開していく。

Ⅱ. 調査内容

1. 「てくてくさぬき」の概要

「てくてくさぬき」は季節型企画と通年型企画で構成されている。季節型企画には、春の企画として「さぬきの食」をテーマとした春のまち歩きが、夏の企画として「さぬき食フェスタ」・「さぬきで遊ぼう」をテーマとした夏の子ども向けの体験プログラムが、秋の企画として「さぬき文化祭」をテーマにした秋のまち歩きや文化財等の特別公開、食の特別企画、「全国まちあるき観光サミット」が開催された。それに加え、通年型企画の「てくてくカード」などの企画が2009年4月1日から12月28日まで実施された。「てくてくさぬき」は、香川県の観光キャンペーン「09 香川まちめぐり てくてくさぬき」の通称である。その中、通年企画として実施された「てくてくカード」企画は、香川に訪れる県外からの観光者および県内からの観光者の観光行動の実態把握のための企画に位置づけることができる。

2. ラリーポイント

ラリーポイントとは、てくてくカードを利用することで貯めるポイントであるが、その利用履歴はポイントの記録端末器に記録される。ラリーポイントの記録端末は利用者の行動に関する情報を収集する重要な場所で、調査の精度を決める重要な要素である。今回の企画では、県内の主要な観光施設および観光関連業の施設に設置した。詳しくは、イベントの開催期間中、イベント会場に設置した3台や、その他琴平電鉄の駅に4台、飲食店に9台、物品販売・休憩施設に7台、宿泊施設に3台、観光案内所に6台、観光スポットに43台で、合計75台が観光地や観光に関わる施設を中心に県内の各地に設置された。ラリーポイント記録端末の設置箇所および設置箇所の類型別の分布は図1および表1で確認できる。

表1 ラリーポイント記録端末設置箇所一覧

場所 ID	名 称	区 分
1	Sanuki Wa-Fu Dining 真 (SIN)	飲食店
2	アウトドアカフェ ビッグフット	飲食店
3	うちわの港ミュージアム-POLCA-	観光スポット
4	オリーブナビ小豆島	観光案内所
5	かりん亭	飲食店
6	ことでんことひら駅	駅
7	ことでん瓦町駅	駅
8	ことでん栗林公園駅	駅
9	ことでん高松築港駅	駅
10	さぬきこどもの国	観光スポット
11	さぬきワイナリー (大串自然公園内)	観光スポット
12	さぬき食フェスタ	イベント
13	さぬき麺業 兵庫町本店	飲食店
14	しおのえふじかわ牧場	観光スポット
15	ジョージナカシマ記念館	観光スポット
16	てくてくさぬき総合案内所 (かがわプラザ)	観光案内所
17	とらまる公園 (人形劇ミュージアム)	観光スポット
18	ニューレオマワールド	観光スポット
19	ふれあいパークみの	物品販売・休憩
20	プレイタワー ゴールドタワー	観光スポット
21	ホテル ルポール讃岐	宿泊施設
22	まいどおおきに 屋島食堂	飲食店
23	マルキン醤油記念館	観光スポット
24	リーガホテルゼスト高松	宿泊施設
25	綾川町うどん会館 (道の駅 滝宮)	物品販売・休憩
26	粟島海洋記念公園	観光スポット
27	花園亭	飲食店
28	海の駅「なおしま」(まちの案内所)	観光案内所
29	海鮮居酒屋 神童ろ	飲食店
30	寒霞溪 (土産物売場)	物品販売・休憩
31	観音寺市ちょうさ会館	観光スポット
32	観光物産センターしおのえ (道の駅 しおのえ)	物品販売・休憩
33	丸亀市観光案内所 (JR 丸亀駅構内)	観光案内所
34	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	観光スポット
35	丸亀城 (観光案内所)	観光案内所
36	丸亀町3町ドーム まちあるき	イベント
37	旧善通寺偕行社	観光スポット
38	玉藻公園	観光スポット

場所 ID	名 称	区 分
39	琴平町観光会館	観光スポット
40	金刀比羅宮表書院	観光スポット
41	金陵の郷	観光スポット
42	栗林公園・古民芸館	観光スポット
43	栗林公園（観光事務所）	物品販売・休憩
44	香川県漆芸研究所	観光スポット
45	香川県立ミュージアム	観光スポット
46	香川用水記念公園	観光スポット
47	香南楽湯	物品販売・休憩
48	高松平家物語歴史館	観光スポット
49	国営讃岐まんのう公園	観光スポット
50	讃州井筒屋敷	観光スポット
51	四国村	観光スポット
52	純愛の聖地庵治・観光交流館	観光スポット
53	小豆島オリーブ公園	観光スポット
54	小豆島ふるさと村	観光スポット
55	小豆島尾崎放哉記念館	観光スポット
56	新屋島水族館	観光スポット
57	世界のコイン館（琴弾公園）	観光スポット
58	瀬戸大橋フィッシャーメンズ・ワーフ	観光スポット
59	瀬戸大橋記念公園（瀬戸大橋記念館）	観光スポット
60	瀬戸内海歴史民俗資料館	観光スポット
61	石の民俗資料館	観光スポット
62	前山おへんろ交流サロン	観光案内所
63	全日空ホテルクレメント高松	宿泊施設
64	総本山善通寺	観光スポット
65	大阪城残石記念公園	観光スポット
66	中津万象園・丸亀美術館	観光スポット
67	二十四の瞳映画村（壺井栄文学館）	観光スポット
68	日本ドルフィンセンター	観光スポット
69	日本一どてかぼちゃ大会	イベント
70	平賀源内記念館	観光スポット
71	法然寺	観光スポット
72	北角別館 菜が良	飲食店
73	本島・笠島まち並み保存センター	観光スポット
74	味処 赤松	飲食店
75	与島 PA（与島プラザ）	物品販売・休憩



図1 設置箇所の種別による記録端末の分布

3. 調査内容

「てくてくカード」は、ラリーポイントを貯める機能のみの「てくてくカード」(以下、TTカードと記す)の他、ラリーポイントをためる機能に琴平電鉄のプリペイドカード機能が加わられた「てくてく Iruca カード」(以下、TIカードと記す)や、最初から一定のラリーポイントが付いている「てくてくモニターカード」(以下、TMカードと記す)の3種類が発行された。

イベント開催期間中、発行されたカードの枚数は、それぞれ、TTカード949枚、TIカード986枚、TMカード249枚で、合計2,184枚のてくてくカードが発行された。しかし、9ヶ月にわたるイベント開催期間中、一度も使用されなかったカードも多く、3種類のカードともに一度も使用されなかったカードは50%を上回った(詳細は表2および表3の通り)。使われたカードは3種類のカードを合わせて939枚であった。この結果から、てくてくカードはポイントを貯めるためにも、また、良い記念品としても認識されていたとも言えよう。

発行されたカードの種別による一枚当たりの使用回数は表4の通りで、3種類のカードともに、一枚当たりに1～5回までの利用が非常に多く、数カ所の

表2 カード使用実態

	てくてくカード	てくてく Iruca カード	てくてくモニターカード
使用されたカード (枚数) (%)	444 45.03%	402 42.36%	93 37.35%
使用されなかったカード(枚数) (%)	542 54.97%	547 57.64%	156 62.65%
発行されたカード (枚数) (%)	986 100.00%	949 100.00%	249 100.00%

表3 カード種別・属性別にみる利用実態

単位：人

性 別	てくてくカード		てくてく Iruca カード		てくてくモニターカード		合計
	香川県内	香川県外	香川県内	香川県外	香川県内	香川県外	
男 性	196	29	178	115	0	16	534
女 性	142	24	137	10	0	10	323
不 明	3	8	1	3	21	46	82
県内外別合計	341	61	316	128	21	72	939
合 計	402		444		93		

表4 種別にみる一枚当たりの使用回数

利用回数別	てくてくカード	てくてく Iruca カード	てくてくモニターカード
1～5回使用	60.70%	77.70%	94.62%
6～10回使用	22.89%	11.94%	2.15%
11～20回使用	9.45%	8.56%	2.15%
20回以上使用	6.97%	1.80%	1.08%

表5 種別にみるカード利用実態

	てくてくカード	てくてく Iruca カード	てくてくモニターカード
使用されたカード枚数	444	402	93
使われた回数	2,594	1,939	298
平均使用回数/枚	5.84	4.82	3.20
うち、駅での使用回数 駅での使用比率	310 12%	792 41%	62 21%

ラリーポイント（観光スポット）に訪れただけであることが読み取れる。他方で、20回以上も使用された例もわずかながらみられ、ラリーポイント集めに積極的な人があることも確認できた。

カードの利用実態を精査したところ、1回も使用されなかったカードが50%を超えているが、使用されたカードに限定した使用回数はTTカード5.84回、TIカード4.82回、TMカード3.20回であった。今回のカードの購入者には香川県内に在住する人が多く、香川県内居住者の購入比率は、TTカードが85.74%、TIカードが77.88%、TMカードが27.85%で、県外からの来訪者向けのモニターカードだけ、県内居住者の比率が低いことも確認できた。そこで、琴電駅の4カ所にラリーポイント記録器が設置されたことに着目し、駅の使用率を調査したところ、TTカードが12%、TIカードが41%、TMカードが21%とカードの種別によって大きく異なることが分かった（表5参照）。この利用実態から、県内居住者の多くはイベント開催期間が約9ヶ月にわたる長期間であることや特定の琴電駅の利用でポイントがつくことに着目、電車を利用した日帰り観光への利用などを考慮し、TIカードを購入したと推測できる。その一方で、TTカードやTMカードの購入者は、電車利用の機会が少ないことや短期間の観光などのような、より具体的で明確な行動計画があつての購入と推測できる。

てくてくカードが使われたラリーポイント記録端末の利用回数の上位10カ所は、カード種別による異なる特徴がみられた。詳細は表6の通りである。まず、TTカードの場合、県内の観光施設や観光案内所、琴電の駅に分布している。県内居住者に県立ミュージアムや栗林公園（観光事務所）がランク・インしているのに対し、県外居住者には金刀比羅宮表書院がランク・インしている。第二に、TIカードの場合、どちらの属性においても琴電の駅が上位4位までを占めているが、その理由にTIカードが琴電プリペイドカードを兼ねていることが考えられる。また、双方の属性に県立ミュージアムがランク・インしている。第三に、TMカードの場合、県内居住者への発行が少ないこともあり、県内居住者は琴電の駅とてくてく総合案内所の4カ所だけであった。それ

表6 種別にみる利用実績上位10カ所

てくてくカード

単位：回

順位	香川県内		香川県外	
1	てくてくさぬき総合案内所	175	栗林公園・古民芸館	46
2	丸亀市観光案内所	106	てくてくさぬき総合案内所	23
3	栗林公園・古民芸館	100	丸亀市観光案内所	20
4	ことでん瓦町駅	88	玉藻公園	20
5	香川県立ミュージアム	78	ことでんことひら駅	18
6	玉藻公園	76	ことでん高松築港駅	18
7	琴平町観光会館	71	琴平町観光会館	17
8	ことでんことひら駅	68	金刀比羅宮表書院	16
9	栗林公園（観光事務所）	59	ことでん瓦町駅	15
10	ことでん高松築港駅	53	ことでん栗林公園駅	11

てくてく Iruca カード

単位：回

順位	香川県内		香川県外	
1	ことでん高松築港駅	190	ことでん高松築港駅	74
2	ことでん瓦町駅	162	ことでんことひら駅	66
3	ことでん栗林公園駅	107	ことでん瓦町駅	54
4	ことでんことひら駅	101	ことでん栗林公園駅	34
5	てくてくさぬき総合案内所	84	てくてくさぬき総合案内所	33
6	栗林公園・古民芸館	68	琴平町観光会館	25
7	綾川町うどん会館	33	栗林公園・古民芸館	17
8	小豆島オーリーブ公園	33	玉藻公園	16
9	さぬきこどもの国	32	丸亀市観光案内所	12
10	琴平町観光会館	32	香川県立ミュージアム	8
	香川県立ミュージアム	32		

てくてくモニターカード

単位：回

順位	香川県内		香川県外	
1	ことでん栗林公園駅	21	てくてくさぬき総合案内所	26
2	ことでん高松築港駅	21	栗林公園・古民芸館	20
3	てくてくさぬき総合案内所	21	日本ドルフィンセンター	14
4	ことでん瓦町駅	20	玉藻公園	13
5			ことでん瓦町駅	10
6			ことでん高松築港駅	10
7			ことでんことひら駅	9
8			純愛の聖地庵治・観光交流館	8
9			旧善光寺偕行社	7
10			琴平町観光会館	7
			与島 PA（与島ブラザ）	7

に対し、県外居住者の場合、県内の各観光地にてラリーポイントを貯めていたことが分かった。このように、発行されたカードの種別により、回遊行動に特徴があることが確認できた。

Ⅲ. 分析および考察

前節ではてくてくカードの利用記録から、カードの使用率や利用頻度、利用箇所、および最も多くの人を訪れた上位10カ所を取り上げ、言及した。それらの調査では、3種類のてくてくカードの利用記録から香川県内・外に区分した居住地域別の行動に差があるように見受けられる結果が得られた。

そこで本節では、その点を踏まえ、てくてくカードをさらに精査し、属性によるカード利用（訪問箇所の数）への差があるとの仮説を立て、その検証を行いたい。具体的には、性別・居住地別・年代別の3つの属性を取り上げ、3種のてくてくカードについて分析を行う。

なお、属性の区分に当たって性別や居住地に議論の余地はないが、年代区分における若年層と中高年層には議論の余地が残る。本稿では、観光中の行動半径が広く、子供がいない層と言える20代までを若年層とし、結婚して子供がいることで観光中の行動半径が縮小する30代から上の年代を中高年層と定義づけたうえ、分析を進めていく。

1. てくてくカード（TTカード）

(1) 性別にみる訪問箇所の差

性別には、男性166人、女性225人で、訪問箇所の平均値はそれぞれ6.56、6.57で、標準偏差はそれぞれ7.093、8.517であった。検定ではt値 -0.016 、境界値 -1.611 で、性別による訪問箇所に差はみられない結果となった。なお、調査対象者における男女別にみる訪問箇所は図2と図3の通りである。

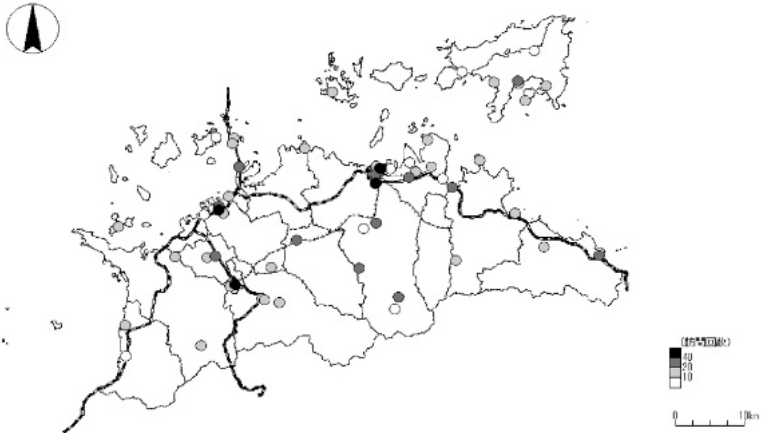


図2 TTカードの利用状況(女性)

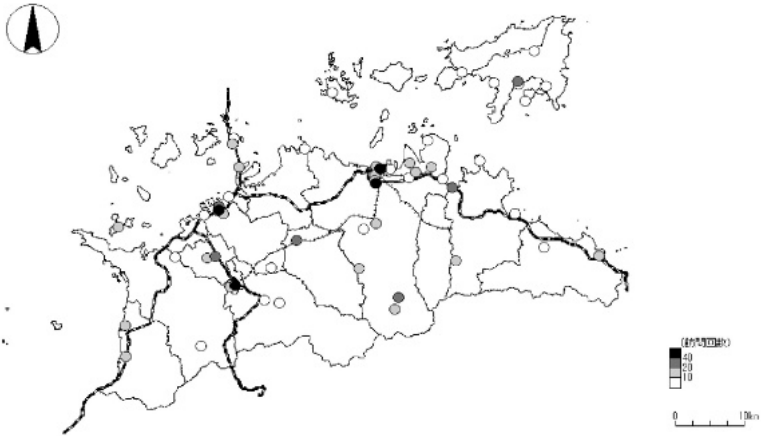


図3 TTカードの利用状況(男性)

(2) 居住地別にみる訪問箇所の差

居住地別には、香川県内の居住者 346 人、香川県外の居住者 53 人と香川県内の居住者が多かった。訪問箇所の平均値はそれぞれ 6.43、6.66 で、標準偏

差はそれぞれ7.999, 7.211であった。検定ではt値 -1.200 , 境界値 -2.524 で、居住地別による訪問箇所には差はみられない結果となった。なお、調査対象者における香川県内・外居住者別にみる訪問箇所は図4と図5の通りである。

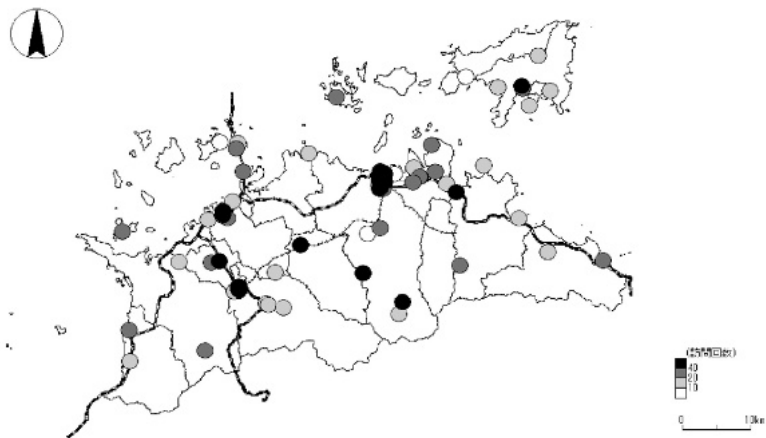


図4 TTカードの利用状況(県内居住者)



図5 TTカードの利用状況(県外居住者)

(3) 年代別にみる訪問箇所之差

年代別には、若年層 84 人、中高年層 316 人で、訪問箇所の平均値はそれぞれ 6.74, 6.41 で、標準偏差はそれぞれ 7.388, 8.025 であった。検定では t 値 -0.344 , 境界値 -1.611 で、性別による訪問箇所には差はみられない結果となった。なお、調査対象者における若年層・中高年層別にみる訪問箇所は図 6 と図 7 の通りである。



図 6 TT カード利用状況 (若年層)

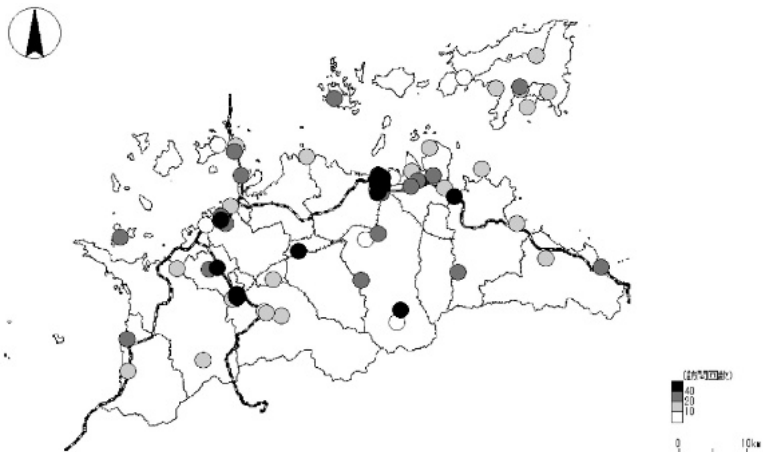


図 7 TT カード利用状況 (中高年層)

2. てくてく Iruca カード (TI カード)

(1) 性別にみる訪問箇所之差

性別には、男性 293 人、女性 147 人で、訪問箇所の平均値はそれぞれ 4.27、4.62 で、標準偏差はそれぞれ 5.365、7.192 であった。検定では t 値 -1.567 、境界値 -1.545 で、性別による訪問箇所に差はみられない結果となった。なお、調査対象者における男女別にみる訪問箇所は図 8 と図 9 の通りである。



図 8 TI カードの利用状況 (女性)



図 9 TI カードの利用状況 (男性)

(2) 居住地別にみる訪問箇所之差

居住地別には、香川県内の居住者 316 人、香川県外の居住者 126 人と香川県内の居住者が多かった。訪問箇所の平均値はそれぞれ 4.78, 3.36 で、標準偏差はそれぞれ 6.769, 3.314 であった。検定では t 値 2.251, 境界値 2.662 で、居住地による訪問箇所には差はみられない結果となった。なお、調査対象者における香川県内・外居住者別にみる訪問箇所は図 10 と図 11 の通りである。



図 10 TI カード利用状況（県内居住者）

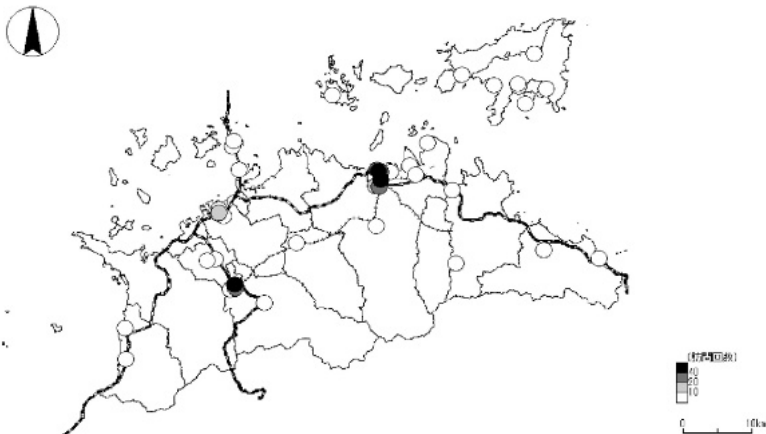


図 11 TI カード利用状況（県外居住者）

(3) 年代別にみる訪問箇所之差

年代別には、若年層 120 人、中高年層 324 人で、訪問箇所の平均値はそれぞれ 4.17, 4.44 で、標準偏差はそれぞれ 5.602, 6.159 であった。検定では t 値.427, 境界値 1.538 で、性別による訪問箇所に差はみられない結果となった。なお、調査対象者における若年層・中高年層別にみる訪問箇所は図 12 と図 13 の通りである。

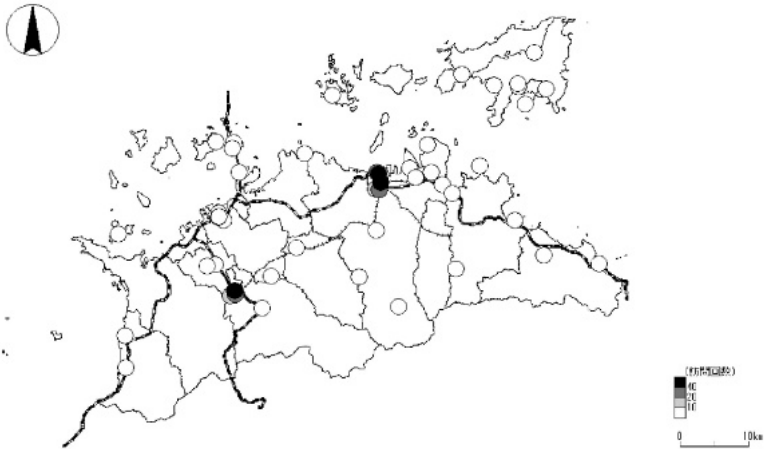


図 12 TI カード利用状況 (若年層)



図 13 TI カード利用状況 (中高年層)

3. てくてくモニターカード（TMカード）

(1) 性別にみる訪問箇所の差

性別には、男性16人、女性10人で、訪問箇所の平均値はそれぞれ3.00、4.60で、標準偏差はそれぞれ1.932、7.027であった。検定ではt値-0.869、境界値-5.399で、性別による訪問箇所に差はみられない結果となった。なお、調査対象者における男女別にみる訪問箇所は図14と図15の通りである。



図14 TMカードの利用状況（女性）



図15 TMカードの利用状況（男性）

(2) 居住地別にみる訪問箇所之差

居住地別には、香川県内の居住者 21 人、香川県外の居住者 72 人と香川県内の居住者が多かった。訪問箇所の平均値はそれぞれ 3.95, 2.99 で、標準偏差はそれぞれ 0.218, 3.902 であった。検定では t 値 1.130, 境界値 2.665 で、居住地別による訪問箇所には差はみられない結果となった。なお、調査対象者における香川県内・外居住者別にみる訪問箇所は図 16 と図 17 の通りである。



図 16 TM カード利用状況 (県内居住者)



図 17 TM カード利用状況 (県外居住者)

(3) 年代別にみる訪問箇所之差

年代別には、若年層 4 人、中高年層 89 人で、訪問箇所の平均値はそれぞれ 3.00, 3.21 で、標準偏差はそれぞれ 1.633, 3.518 であった。検定では t 値.120, 境界値 3.738 で、性別による訪問箇所に差はみられない結果となった。なお、調査対象者における若年層・中高年層別にみる訪問箇所は図 18 と図 19 の通りである。



図 18 TM カード利用状況 (若年層)



図 19 TM カード利用状況 (中高年層)

4. 考 察

3種のでくてくカードの利用記録のクロス集計では、属性別異なる利用傾向が見受けられた。このことを踏まえ、3種のカードの利用記録を基に、属性別利用傾向の差の有無の検定を行った。しかし、分析の結果、属性別利用傾向の差は認められなかった。

その理由に様々な要因が考えられるが、本稿ではつぎの4点を取り上げる。

・カード運営上の問題点

カードの購入者と利用者の不一致があげられる。長期間にわたるイベント開催期間であったため、購入者と利用者が異なることが想定でき、購入者と実際利用した人の属性の不一致が考えられる。

つぎに、同一箇所での複数回利用が多く見受けられ、同一人、あるいは、複数の人による使用が考えられる。これらのことが、分析の精度に影響したと推測できる。

・観光外の目的での利用

琴平電鉄の利用の際に設置された4カ所の駅での利用が上位10位にランク・インしていることがあげられ、日常生活での利用が考えられる。調査では、駅のラリーポイント記録端末の利用者で、駅の周辺の端末でしかなくてくカードを利用していない場合も多く見受けられた。

・低いカード認知度

県内居住者向けの発行枚数が多く、72.2%にのぼった。県外からの来訪者に対する広報活動の再考が必要とされる。とくに、県外からの来訪者向けとも言えるTMカードの利用枚数は非常に少なく、全体の10%を下回った。これらのことから、県外居住者のでくてくカードに対する認知度が低いと言える。

・ラリーポイント記録端末の設置箇所の少なさと偏り

ラリーポイント記録端末が設置されたところの多くは観光スポットであるが、一部を除き、記録端末の利用率は低迷した。一方、観光スポット以外の飲食店や駅、宿泊施設、物品販売・休憩施設、観光案内所での設置は少なく、設置場所にばらつきが激しいことが指摘できる。

これらのような運営上の課題が、今回のもてくてくカードの利用記録の分析から明らかになった。しかし他方では、観光振興のための推進方向の確認ができた点もあった。

・観光行動における観光案内所の重要性の確認

利用実績上位10位にはてくてくさぬき総合案内所や丸亀市観光案内所、琴平町観光会館がランク・インしていた。訪れる人の多くが観光案内所を利用していたことから、観光振興に観光案内所が果たす役割の重要性が再確認されたことと言えよう。

・新たな観光資源の確認

香川県を代表する観光地として認識されている従来からの観光スポットとして、今回の調査で利用者が多く確認されたところに、栗林公園、玉藻公園、金刀比羅宮などがあつた。今回の調査では、その他に香川県立ミュージアムがランク・インしていた。とくに、TIカード利用者においては県外者の上位10位にも含まれた。このことから、従来の観光スポットとしての景勝地・名所から、芸術・文化も観光対象にまで観光スポットとしての認識するようにその範囲が拡大する変化が確認できた。

IV. 終わりに

「てくてくさぬきカード」の利用記録を基に、県内における観光者の行動の分析を通して、今後改善すべき課題や新たな観光資源の発見ができた。しかし、データの偏りなどにより当初予定していた観光者属性別みる行動パターンを明らかにすることはできなかった。

今後観光振興をさらに進めるために、今回の調査で浮き彫りになった運営技術上の課題の改善や新たな発見の取り込みが必要であろう。また、一歩進んで、観光者の行動軌跡の分析などによる観光行動の類型化やモデル化も必要であろう。最後に、今後さらに精度の高い調査を基にする観光者行動を取り上げる実証的研究がすすむことを期待する。

謝 辞

本稿の作成に当たり、香川県観光交流局から貴重な資料を快くご提供いただいた。深く感謝の意を表したい。

参 考 文 献

- 井上直・森本章倫・古池弘隆・中村文彦（2003）「中心市街地と郊外大型店における歩行行動の差異に関する研究」『土木計画学研究・論文集』Vol. 20, No. 3, pp. 471-476.
- 金徳謙（2006）「研究誌にみる日本における観光およびその研究の動向」『香川大学経済論叢』第79巻第2号, pp. 73-97.
- 金徳謙（2008）「兵庫県篠山市にみる空間変容と観光地域振興」『香川大学経済論叢』第81巻第2号, pp. 19-41.
- 竹上直也・塚口博司（2006）「空間的定位に基づいた歩行者の経路選択行動モデルの構築」『土木学会論文集D』Vol. 62, No. 1, pp. 64-73.
- 朴美慶（1995）「観光対象としての「市場」に関する研究 - 観光者の消費行動を中心に -」『観光研究』Vol. 7, No. 2, pp. 11-20.
- 橋本俊哉（1994）「歩行スケールの観光回遊に関する研究 飛騨高山での外国人観光者の回遊実態の分析」『観光研究』Vol. 5, No. 1・2 合併号, pp. 11-20.
- 山下良久・余川欣也・内山久雄（2006）「ターミナル駅構内における旅客行動追跡調査」『運輸政策研究』Vol. 9, No. 3, pp. 14-20.
- 山本泰裕・伊藤弘・小野良平・下村彰男（2006）「GPSを用いた新宿御苑における利用者の行動パターンに関する研究」『ランドスケープ研究』Vol. 69, No. 5, pp. 601-604.
- 李早・宗本順三・吉田哲・唐ベン（2008）「GPSを用いた水辺での行動の研究」『日本建築学会計画系論文集』第73巻第630号, pp. 1665-1673.